



令和2年1月31日
文京区立明化幼稚園

絵本の思い出

副園長 西郡 千晴

今月は年中、年少組の発表会があります。本番に向けての取り組みで、子どもたちがお話の登場人物や思い思いの動物に変身して歌や踊りを楽しみ、動物同士で「ガオガオ」「ニャーニャー」と話している様子は微笑ましいものでした。発表会の舞台でお客様に見ていただくことは子どもたちにとってもちろん晴れがましく、褒められて嬉しい経験につながる大事な機会ですが、幼稚園では日頃の遊びや生活の中で、何かになりきって遊ぶことを全身で楽しんでいる時間も大切にしたいと考えています。その大切な時間が充実したものとなるように担任の先生たちは知恵を出し合って保育を計画し、準備をして進めています。幼稚園教育要領の中で、幼稚園教育において育みたい資質・能力の一つとして「思考力・判断力・表現力等の基礎」が示されています。幼稚園の学びは、遊びや生活の中で総合的に行われていることはご存じの方も多いと思います。私たち教師は、子どもたちが遊ぶ姿に寄り添いながら「これが学びにつながっているな」という姿を見つけたらタイミングを逃さずに「よく気が付いたね」「これが面白いね」と子どもが何気なく感じていることを言葉にして、子ども自身の学びにつながるように援助をしていきます。そして、子どもたちが何気なく感じる心に気が付くことができるようになるためには、教師自身の感性を磨くことが大切だと言われます。

感性を育む過程として私自身のことを思い出してみると、幼児の頃毎月手元に届けられる絵本がありました。その中で強く印象に残っているものがいくつかあります。いずれも外国の作家のものばかりで、自分の日常生活とはかけ離れていて、出てくるものの名前には全く耳なじみもなく意味さえ分からないようなものばかり。でも楽しくて本が擦り切れるほど繰り返し読み返していたことをよく覚えています。今時でしたら知らないものに出合ったとき google や yahoo! で調べると正解が容易に見つかるのかもしれないですね。知らないものを調べることももちろん大切ですし知識が増えるのは楽しいものです。ただ、私のように意味も分からないけど繰り返し楽しめた要素は何でしょう。今でも大好きな絵本『ベーコンわすれちゃだめよ!』という絵本の中に“おちばかきのレーキ”というのが出てきます。「レーキってなんだろう?」「絵の様子から見ると…こんな風に使うのか」などお話の中から読み解いてイメージを広げては主人公の男の子の生活を想像してみたものです。そんなささやかなことの積み重ねが今の職業で役に立っていると思うと大事な時間だったのだと気付かされます。

ご家庭で大人たちが慌ただしく生活を進める中で、じっくりと絵本を読んでいるお子さんの姿が見られたら、その時間を大切にぜひ一緒にお話の世界の楽しさを味わってみてください。

男の子が買い物を頼まれました。買うものを忘れないように唱えながらお店に向かうのですが…。さて、無事にお買い物ができるでしょうか。興味のある方はぜひ読んでみてください。

